

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3071201036
法人名	有限会社 友里園
事業所名	ねごろの里
所在地	和歌山県岩出市森236番地 (電 話) 0736-61-2547

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年8月6日	評価確定日	平成21年8月25日

【情報提供票より】(21年7月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.68人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建て 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,800~33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (300,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(7月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低 72 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かわぐちクリニック ・ みやもと歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は、利用者を家族の一員と捉え、理念「利用者をもっと知ろう、地域の方にも知ってもらおう」の実践に取り組んでいる。職員は、より利用者の意向に沿えるよう利用者のちょっとした言葉や行動からも情報を得るよう努めていて、ミーティング時には職員間で情報の共有を行う等、積極的な姿勢が伺える。また、近隣の人が遊びにこられる等地域の方の出入りもあり、楽しく迎えてくれるホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回と同じく、外部評価や自己評価の意義を充分理解し、積極的な改善に向けて努力し続けている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義を全員で理解しており、管理者・職員で話し合いながらまとめ、有効に活用されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 民生委員や自治会、市からの参加協力が得られ、施設の情報、提供してくれる情報を、更に地域密着型の改善、サービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情はないが、出来るだけ機会を捉え、意見を聞き出し、速やかに対応し運営に反映させる様、努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、回覧版などで行事等の情報を収集し、ごみ収集場所を利用者と共に清掃したり、施設行事には近隣住民を招待したりボランティア参加が得られる等交流が増している。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の[利用者をもっと知ろう、地域の方にも知ってもらおう]との独自理念をつくりあげ、職員にも浸透させ、その人らしい生活を支援する努力を続けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、利用者中心の支援を実践するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年より夏祭りやクリスマスを、地域の子どもや民生委員に声掛けして地域向けにも開放しており、中学校よりボランティアが参加している。また、ごみ収集場所の掃除を行うなど、地域の一員として気を付けている。自治会に参加し交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者機関に見られる事で職員自身が気づき、改善を取り入れる必要があることを話し合い、管理者と共に理解し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に一回、市・民生委員・家族・近隣自治会の協力を得て開催している。会議では行事や生活状態などを報告したり、施設への意見をもらったりしサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進以外にも市に提出する書類等で利用者と共に出向いたり、市から訪問してくれることもあり、分らない事は都度訊ねる等、市と協力し合いサービスの向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の介護計画など、医師・看護師と連携し家族に健康状態を報告している。預っている金銭については、明細を出納帳につけて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からは極力機会を捉えて聞き出すようにしている。不満内容があれば、ミーティング時に話し合いを行い迅速に対応している。対応後は家族等に報告を行ない、運営にも反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2年間職員の入れ替わりはないが、パート職員の退職した方が調理の手伝いに来てくれたりする等、出来るだけ馴染みの環境が保てるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の働きながらのスキルトレーニングの大切さを理解し、法人内外の研修に希望や計画的な参加をさせている。研修に参加した場合は、伝達講習をしたりレポートを提出し皆が学べるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、相互研修など交流する機会を持ち、近隣の同業者と勉強会やネットワーク作りに役立て、質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や利用者に応じて、納得いくまで説明、また併設デイサービスを利用しながらホームへの入居に向けて徐々に、馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	医師・家族・施設と情報を交換しながら変化あれば、すぐ連絡対応するように心がけており、業務としての介護でなく、家族として過ごすようにしている。昔話や、野菜作りの連作嫌地を教えて貰う等、学び支えあう関係をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本意の希望は何かを本人や家族から情報を得ながら心理的な面も含め把握出来るよう、ミーティング等で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当者が3ヵ月毎に交代し、計画見直しを行い、前担当者や家族等の意見を反映した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは一ヵ月を目安に行っていて、必要に応じ利用者の様子を家族に送付している。状態が変化した場合の見直し前でも現状に即した対応をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの洗濯物たたみを手伝ったり、デイサービス利用者が遊びに来られたりして交流を行っている。また、入居前にデイサービスの利用を行ったり、退居後高齢者アパートに入居したり等、利用者の要望に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月3回定期的に内科医の往診があり、泌尿器科・歯科等についても診療が受けられるよう対応している。また、ターミナルケアに関しても夜でも往診が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルについて出来るだけ早期に施設で出来ること、出来ないこと、見極め主治医、家族等とチームとして支援に取り組んでいる。職員は今後の方針を共有するため話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼称については、ひとり一人の利用者や家族の希望を取り入れていて、言葉遣いにも気をつけている。職員の会話には優しさがあり、人格などを傷つけるような言動は見られない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時に、宗教、趣味、生活など充分聞いている。希望に添った家具配置を行う等、その人が希望する部屋づくりをしている。また、職員は利用者の行動時間を制限せず、一人ひとりのペースを大切に、出来るまで待つよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、出来る範囲でして貰っている。献立も共に考え、鮮魚などはその日のチラシを見て買出しを行うなど、楽しみをつくっている。誕生日には本人の食べたいものを優先している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望による時間で自由に入浴出来るよう支援している。一日に2回入浴する利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴・趣味などを活かしたお茶・詩吟・料理・掃除などをしたり、暑い時期は室内で出来るレクリエーションを行う等、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子利用の方も、ホームセンターに買い物に出かけたり、化粧品などは利用者の気に入った店に共に出かけたりしている。また、気分転換の散歩、花見、夏祭り、時には外食など外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	就寝時以外開放し自由に出入り出来る様、鍵のかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練をしており、利用者及び職員の全員が災害時対応の出来る様に取り組んでいる。訓練には近隣の方の参加も得られている。また、自動消化器を全室に設置している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分の過不足について、毎日チェックしている。血液検査・トイレ回数などで状態を把握し一人ひとりの状態に応じて調整出来る様に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天窓採光で柔らかい光となっている等、配慮がされている。生活感が味わえる庭や、ベンチを利用して会話の中にも季節をとりいれている。気候の良い時期には窓をあけ心地よい季節の風を感じて貰っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クーラーの苦手な方や体温調節が困難な方がおられるので、空気調整に気を付けている。居室には普段使い慣れた家具や好みのものを持ち込み、本人が居心地の良い日々を過ごせるよう工夫している。		